

ふ き た さ と 吹田の郷

◆ 発行/すいた市民環境会議 ◆ 代表/小田忠文 ◆ 事務局/☎564-0032 吹田市内本町2-18-8 ☎・FAX 06-319-0630 小田 (午後6時以降)

◆ 年会費/個人会員1000円 法人会員10000円 ◆ 振り込み先/00980-28845 すいた市民環境会議



環境配慮指針(マニュアル)を私たちが考えましょう

1998年8月、吹田市は『環境基本条例』に基づく『環境基本計画』を策定しました。吹田市環境基本計画はこれからの私たち自身、そして未来を生きる子どもたちにかかわる“吹田市の環境”に関する20年間の計画です。

この計画を実行するためにはもっと詳しい、実行しやすい目安が必要です。その目安として行政は「配慮指針」をつくる予定です。

しかし、市内に生活する市民自身の考えが盛り込まれて初めて、
実行しやすい現実的な「配慮指針」になると思います。

そこで、すいた市民環境会議は、多くの市民がかかわって
「市民が考える環境配慮指針」を作ってみるとどうなるかと考えました。
いろいろな人が集まることで違う視点でものを見、考えられるようになります。

皆さん、一緒にわいわいと、楽しく、「環境配慮指針」を考えましょう。

市民が環境配慮指針を考える会

日時 11月28日(土) 19:00~21:00
場所 吹田市民会館



幹事会 /市民会館にて

12月19日(土)pm1:30~

1月16日(土)pm1:30~

お気軽にご参加ください

吹田商工会議所 50周年記念

環境シンポジウム基調講演 (H.10.9.26 13:00～ メイシアターにて)

『持続可能社会と企業行動』 経済評論家 内橋 克人

・環境に配慮した社会を形成するためには全ての人々が「環境知性」を高めなければならない。これからは企業も消費者も行政も環境に対する理念が必要。

●第1次産業革命

産業革命とは手工業から機械工業への産業技術への変革。1760年代イギリスの繊維工業部門に始まり、1830年代以降欧米各国に波及。その結果生産量は飛躍的に増大し、工場制と資本主義が確立した。

1. トイレなきマンション
2. 資源は無限を前提
3. 企業が負担すべきコストを社会に転嫁
4. 大量消費社会（膨張大量生産）＝膨張大量消費

●第2次産業革命 21世紀から

1. 如何にモノを作らないか、という思想に基づいてモノを作る。
 - ・何代にも亘って使えるような家具
 - ・CPUを取り替えれば再使用できるようなコンピュータなど。
2. 企業間の競争は限界にきた
 - ・製品の人件費はコストの5%ぐらい。時計などは3%ぐらいだから合理化しても価格の影響力は小さい。
 - ・廃棄物を原料とする企業集団（コンビナート＝コ・ソーシャル）をつくる。
ゼロ・ミッション＝産業連鎖
3. 社会的消費者＝消費者の熟成
 - ・消費者は何故安いのかを考える。
商店街は地域社会を形成している。大型スーパーはそれを破壊してきた。
盛岡市の例 商店街 4,500店 で売り場面積 15万㎡
進出大型店 3店 で売り場面積 18万㎡
4. 生産条件よりも生存条件を優先する
 - ・生存条件がマイナスになるような生産条件は採用しない。
例：フロン…半導体の洗浄と乾燥を同時に行う。オゾン層を破壊。

まとめ ・これからの企業は本当のモノ作りに専心し、企業の利益と社会の利益が同心円になるようにしなければならない。
・消費者も生活のあり方をレベルアップし、自発的に簡素な生活を心がける。品質は高く、量は少なく。

市民向け自然環境講座 開講

第一回環境講座／10月20日(火) 10:00～15:00 千里北公園

「吹田市で見られる昆虫」講師 八木 剛(兵庫県人と自然の博物館研究員)

昆虫少年だった私にとって、楽しみにしていた講座

 小室 巧

今にも雨が降り出しそうな肌寒い日でしたが、はりきって参加させていただきました。

千里北公園・野外活動センターの会場には40代以上の女性がほとんどで、男性は2名だけ講師の八木剛先生は「兵庫県・人と自然の博物館」研究員で、20代の若くてハンサムでユーモアたっぷりの先生でした。そして彼もまた幼い時から虫採りばかりしていた昆虫少年だったと聞いて、とても親近感を覚えた。

午前中は屋内で、各自がチョウ・コガネムシ・ハチ・ハエの絵をかき、昆虫とはどんなものかをしっかり学んだ。

虫・・・外骨格である／血管はない／気管が体中に発達／体は頭・胸・腹と3つに分かれる
足は胸から6本／翅は4枚or2枚

翅や口などの体の特徴によって分類、多くの種がいてしっかり見分ける必要がある。そして生物の多様性とは、環境も多様でなくてはならない、このことはよく頭にたたきこんでおかないと、ついつい人間本意の環境を考えがちだと反省した。また「子供が自由に虫採りができるフィールドがなくなっている」という話は、私もいつも思っていたことで、私自身これからのテーマにしたいと思った。

午後からは外でバッタの運動会。サッカー選手になる虫採り！

チカラシバの種をくつ下にいっぱいつけながら草むらをかき分けバッタを捜すが、なかなか見つからず苦戦。女の人達が、ひしに虫採りをしているのを見て“日本の将来は明るい”となぜか思った。つかまえた虫たちの名前とオス・メスを調べ、種類ごとにジャンプ力を競う、私たち4班のバッタくん、バッタちゃんたちがガンバリ優勝した。バッタも喜んで草むらへ帰って行った。(人間本意なのは……)

この日出会った虫＝オンブバッタ／ショウリョウバッタモドキ／クルマバッタモドキ

マダラバッタ／イボバッタ／ツチイナゴ／コバネイナゴ／ヒシバッタ

オオカマキリ／チョウセンカマキリ／マツムシ／クビキリギス

オナガササキリ／ホシササキリ／ツユムシ／クサキリ／エンマコオロギ

ツツジサセコオロギ などでした。

こんなに楽しい講座をみんなに教えてあげたい。最後に参加者どうしのコミュニケーションの時間がもう少しほしいと感じました。

《 お女郎稻荷のアラカシ 》

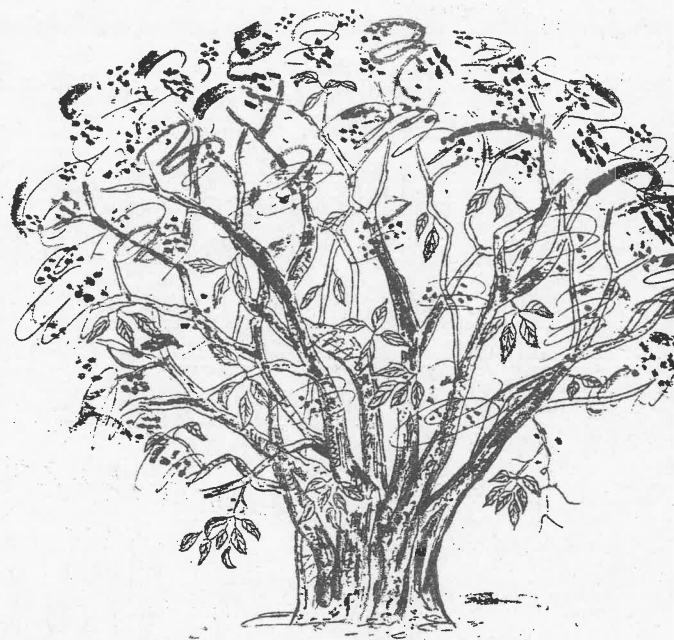
旧“吹田の渡し”から少し北に入った所に、可愛い赤い鳥居の立ち並ぶ「神通力を得た狐・茶枳尼天(だきにてん)」をまつる小さな祠があり、この祠を守護するかのように四方に枝を広げたアラカシの古木が(株立ち7本)根を下ろしている。

吹田に自生するカシの木の大部分を占めるこの木は、その名の通り枝葉も大きく堅く、粗々しい感じながらその実(ドングリ)は野鳥たちの大切な食料源。

葉は革質で固く、裏面は粉白色、上部の縁に粗ききょ歯のあるのも特徴で西日本に多く分布する。

◆樹高 14.0m

◆幹回り 6.54m



浅田 都司男

市民向け自然環境講座 開講

第二回環境講座／11月 5日(木) 10:00～15:00 吹田市立博物館・紫金山公園

「身近な樹木と野草」講師 菅井 啓之(大阪教育大学附属池田小学校教諭)

身近な自然を通して自然に思いを向ける 佐藤 和子

「丸太でジュースが飲めるか」から始まったこの講座は、小学校5年生、6年生を教えていらっしゃる菅井先生の実験を交えての、わかりやすく、楽しい講座でした。

自然の多様性とは・・・窓越しのただの「木」、木肌・葉の色など同じものがないという違いが見えてきた、また、サクラの花びら一枚一枚の筋が全部違うこと、“春になったら確認してみよう”と思いました。

午後からは紫金山公園を散策、自然と出会いながら『知る』感動の一時でした。

“薔薇ノ木ニ 薔薇ノ花サク。ナニゴトノ不思議ナケレド。”(北原 白秋)

『あたりまえ』が『おもしろい』と感じ始めたときに自然環境が見えてくる。参加者がコミュニケーションをとれる時間があつたらと思いました。